

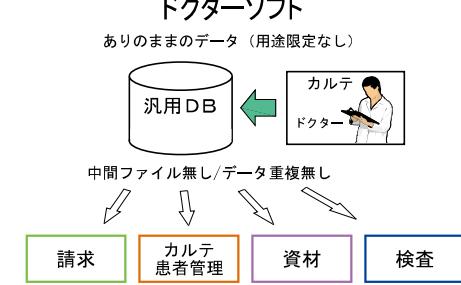


ドクターソフトのコンセプト

電子カルテは、医師の知的産物である日々の診療経験、観察、仮説、考察、処置、結果をもれなく記録し、その蓄積を診療に生かすためのものです。知識／経験が色褪せる前に頭脳の外に保存、それを再活用し、的確で丁寧な診療／患者ケアを行うため、また、患者から信頼され選択される医療を行うためのものです。ドクターソフトは、カルテの詳細情報を、利用目的を限定しない形で、そのまま永久保存します。医師の所見だけでなく、医師の指示のもとに行った医療行為すべての詳細が記録されます。医療においては、ほとんどの情報は医師やナースや技師により発生しカルテに記載されます。このため、発生した情報を、特定の目的に合わせた加工をしないで、そのままのままに保存すれば、医療請求、オーダリング、患者管理、在庫管理などすべての業務に利用できます。たとえば、医療請求は実施した医療行為に基づいて計算される

ので、カルテの医療行為の詳細記録からレセプトを作成でき、医師の指示に基づき患者に投薬されるので、同じカルテの詳細記録から薬剤など消費量がわかります。PCの発達に伴い、レセコンをベースとして、それに所見などを追加記録できる仕組みを作り、医師がカルテをPCに直接入力するという電子カルテが1990年代に現れました。これらは、レセコンの進化型といえます。しかし、レセコンに必要なのは請求情報であり、カルテ情報とは異なるものです。包括や請求不適用などで医療記録より情報が減ったり、加算などで増えたりします。医療行為は変化が無いのに、レセコン情報は法改正によって変化することもあります。請求とカルテは土台が違い、似て非なるものです。このため、レセコン進化型の電子カルテは、請求データとカルテデータを二種類保持する必要がでできます。これが、電子カルテの信頼性を下げ、長期データの一貫性を損な

い、活用範囲を狭くし、レスポンスを悪くし、保守を困難にします。この、医療詳細情報の単一保持構造が、電子カルテの本来の目的を、簡潔に、低コストで果たすために必須であると弊社は考えています。そして、この土台の上に、医師、ナース、検査技師、リハビリ、など医療スタッフのそれぞれのスタイルに合わせて自由にデザインできる入力画面を組み合わせたものが「ドクターソフト」です。



ユーザーそれぞれの個性に合わせた電子カルテがレセコンと融合

カルテをそのまま入力、瞬間計算
医療行為をそのままカルテに入力すると、ドクターソフトが自動的に請求の世界に変換し、丸めや加算を含めた会計計算を行います。ドクターは、カルテに記入するだけで、診療記録を残すと同時に請求計算ができます。カルテ、レセ完全一体構造なので、カルテ画面上でも請求点数や患者負担金を1-2秒で確認できます。

変わっても、単位や薬剤の規格が変更されても正しく判読できます。

データを徹底的に再利用
ドクターソフトに一度入力するだけで、レセプト発行、処方箋発行、患者管理、患者検索、在庫管理、オーダリングなどすべての業務にデータが再利用されます。このため、事務作業の大きな部分を占めるデータ入力の手間を最小限にできるばかりでなく、重複保存によるストレージの無駄遣いや、再入力による間違いを減らすことができ、システムとしての信頼性も向上します。

ができます。カルテ画面全面の任意の位置に描くことができます。薬処方の上にかさねてマークを入れたり、画像の上に手書きでマークやコメントを描くことも自然にできます。画像、音声、ビデオのカルテ画面への貼り付け保存も自由です。

ユーザーの個性にあわせたテンプレート利用

ドクターソフトは事前に用意されたテンプレートから選んで使うのではなく、たくさんのサンプルの中から選び、さらにそれぞれのユーザー個人に合わせてカスタマイズして利用します。ユーザーがゼロから作成することも可能です。ドクターソフトのユーザーの間では数千種類のテンプレートが使われており、導入時にも百種以上のサンプルが提供されています。診療科別、医師／ナース／検査／リハビリなどの職種別、

カルテは永久保存し長期互換性保持

記録できる患者数やカルテ枚数など実質的に制限はありません。将来5000年は記録保持でき、PC技術が変わっても、PC基本ソフトが変わっても、ドクターソフトがバージョンアップされても、蓄積されたカルテ情報は一貫して利用できます。医療行為や材料や検査の名称が

紙のカルテ以上の柔軟性
描画ソフトを別途使わずに、また、描画用の窓をわざわざ開かずに、ペンで自由に絵や字を描くこと

また同一職種でも個人別にテンプレートを定義でき、ユーザーのIDでドクターソフトにログインすることによりそのユーザー用のテンプレートに切り替わります。このため、カルテ上の不要な項目を削り、必要な項目を加えて、無駄なく簡潔で正確で十分な情報を含んだカルテを作成できます。

テンプレートの階層と権限管理

病院テンプレートは院長や部長の責任、患者テンプレートは主治医の責任というように、二つのテンプレートを使い分けており、それぞれ何種類でも作成／登録できます。主治医は、患者に対して病院テンプレートから選択すると患者に適用され、患者テンプレートとなります。患者テンプレートは患者カルテの一部として患者単位に保持するので、病院テンプレートが変更されても過去の患者カルテは変化しません。患者テンプレートは主治医や担当ナースが変更できます。テンプレートやその中の領域ごとに参照可否／変更可否のユーザー権限を設定できます。同じテンプレ

レートを共有しながら、ナースは参照できるが書き込めない領域などの設定ができます。病院テンプレートも含めてすべての変更履歴は記録保存されます。

セットと部分テンプレート

処方、検査オーダー、処置、病名、コメント、をまとめてセット化し、一クリックで入力ができます。テンプレート中のチェックボックスをクリックすると、対応するセットを自動入力するような操作もできます。無条件に加算できる項目は、セットに加えていくなくてもセット選択時に自動的に追加され、指導料のような実施に基づいて請求する項目は、請求できる可能性があるときにポップしてユーザーに請求可否を質問します。「消化器」や「呼吸器」というような部分的な入力テンプレートを用意しておき、一人の患者を診察しながら一枚のカルテに部分テンプレートを追加して記入することができます。必要な事項だけを一枚

のカルテにコンパクトに記載できます。

紹介状や検診レポートなどを自由に作成できる

ワードやエクセルで紹介状などのひな形をドクターソフトに登録しておくと、患者のカルテ上のメニュー選択により、患者氏名などの情報が自動的に埋め込まれて文書が表示されます。必要に応じて編集を行い最終の文書を作成することができます。自動埋め込みされた部分も編集でき、紹介先／疾患別の紹介状や男女別の検診レポートなど何種類でもユーザーが登録可能です。

複数患者のカルテを同時に開く

PCのメモリーが許す限り、何人の患者でも同時にカルテを読み書きできます。3人くらいを同時に見ることが多いです。患者さんが身づくりをする間に次の患者のカルテを見たり、診療中急な問い合わせがあったときに割り込んで別の患者のカルテをチェックするようなことが無理なくできます。

複数ユーザーが同一患者に同時記入できる

検査部門やナース、事務員が入力中の患者に対して、医師が同時にカルテ記入する同時書き込みが可能です。制限は一切無く、同一カルテに対して複数医師が同時に書き込むこともできます。同一患者同一項目に複数ユーザーが同時記入した場合は、その項目だけについて衝突を検知し、どちらを原本にするかユーザーに判断を求めます。そして、原本としなかった項目も履歴としてユーザーIDや時刻を加えていつでも参照できるように記録します。このような同時書き込み機能を制限し、排他的な書き込みのモードで利用することもできます。

メニューをキーボードに割り当てて高速入力

職務、診療科、個性により最適な入力操作は異なります。ドクターソフトはすべてのメニュー項目を、ユーザーごとに、任意のキーボードに割り当てることができます。これはドクターソフト独自の機能であり、一連の複数のメニュー選択を一つのキーに割り当てるこもできます。複数メニュー項目を続けて選択するときに、選択と選択の間の待ち時間も設定できるので、最初の選択で少し処理時間を要し、その後で次のメニューを選ぶような場合であっても、現実的に広範囲に活用ができます。メニュー選択は簡単ですが画面を見る必要があります。キーに割り当てることで画面を見る必要が減り、患者さんの顔を見る時間が増えます。

メニューのカスタマイズ

メニュー やメニュー項目を減らすこともできるので、単純ルーチン業務では誰でも使える簡単な操作画面にできます。また、すべてのメニュー項目は、画面上の任意の位置／大きさ／色／名称、のボタンに割り当てるの で、使い慣れないユーザーでも困りません。

薬剤相互作用や禁忌事項などの自動チェック

薬剤の相互作用や、病気／年齢／処置／妊娠などの任意の組み合わせに対して禁忌事項を自動的にチェックすることができます。ユーザー独自のチェックルールを作成できます。カルテ入力時にリアルタイムにチェックする方法と、レセプト印刷前などにまとめてチェックする方法が用意されており、投薬／処置／検査オーダー時のチェックや適応病名もれなどに幅広く活用できます。(薬剤相互作用や処置処方検査適用病名のチェックルールは専門メーカーから販売されています。自分で作成することもできます)

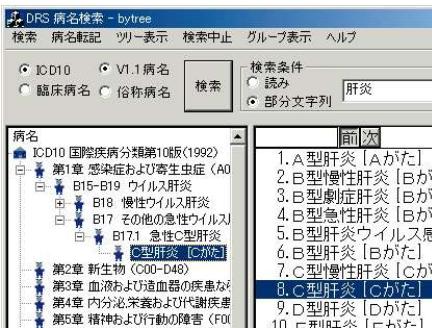
どんな場合も一患者一登録、当たり前のことがですが、、、

一人の患者が一病院で複数の診療科を受診した場合、公費を含む複数の保険を使って受

診した場合、あるいは介護を受けている場合も、患者の登録は一人で一元的に扱います。このため、医療のための患者管理が完全になり、薬剤の重複投与や相互作用なども効率的なチェックができます。

病名を探す方法も複数用意

診療データの基本となる、薬、処置、検査、病名のマスターは、すべて標準的な規格を使っています。検査は同じ検査でもいろいろな名称が存在し、探しにくいですが、ドクターソフトは変名機能を備え、それぞれのユーザーが使いやすい名称に変更して使うことができます。名称を変更しても医療行為としてのコード



は不变なので、レセプト請求時などはレセプト用の名称に変更されます。病名はICD10の正式名称と7万件の俗称病名の両方を備え、俗称で検索して正式名称を記載することができます。ICD10病名はICD分類と臨床分類の両方のツリー表示ができ、わかりにくい病名でも探索できます。

テンプレートで作成できる温度版

テンプレート機能を使って、温度版も作成できます。ドクターソフトのテンプレートはユーザーでも作成や変更ができます。患者の病態に応じて適切な項目を自由に選択／配置でき、予定／実施／変更／中止の情報を記録／表示します。温度版は一日を時間帯に分割でき、バイタルなどグラフ表示もできます。また、クリニックパスもテンプレートで作成して、日々のカルテ画面や温度版上に布置することができます。このリーフレットの表紙の温度版はテンプレートで作成したものです。

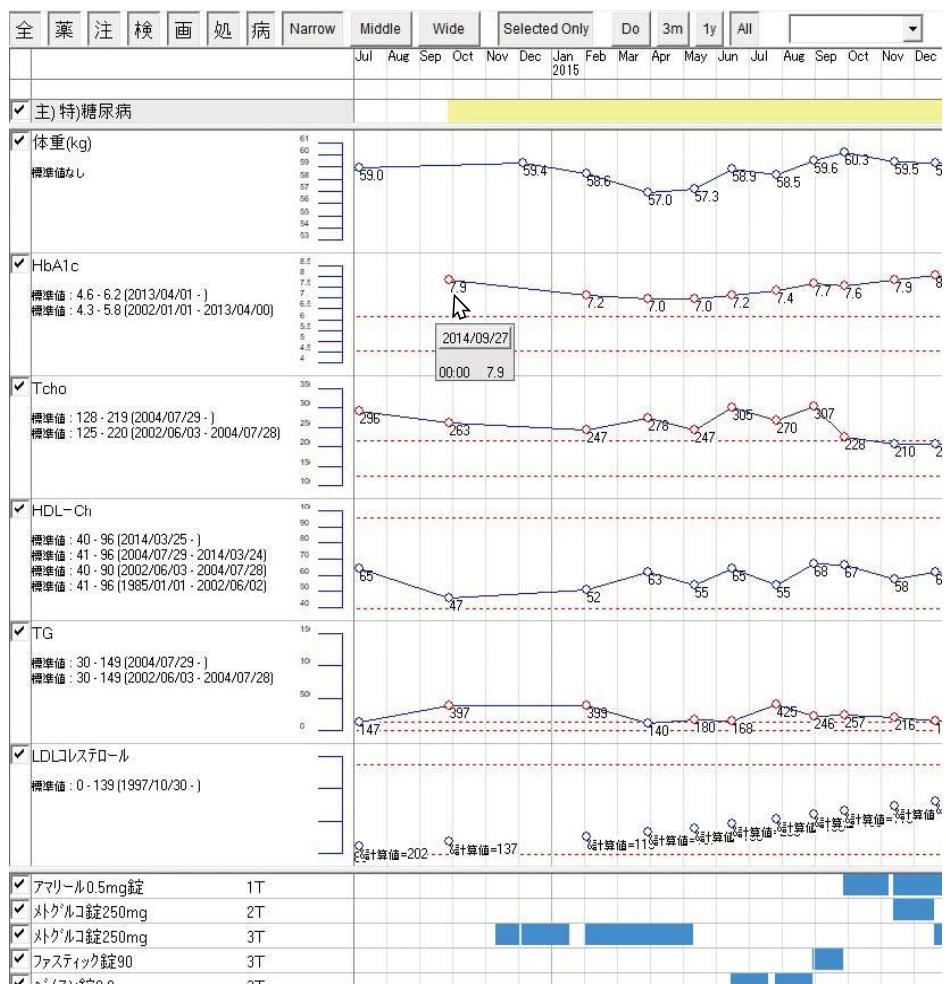
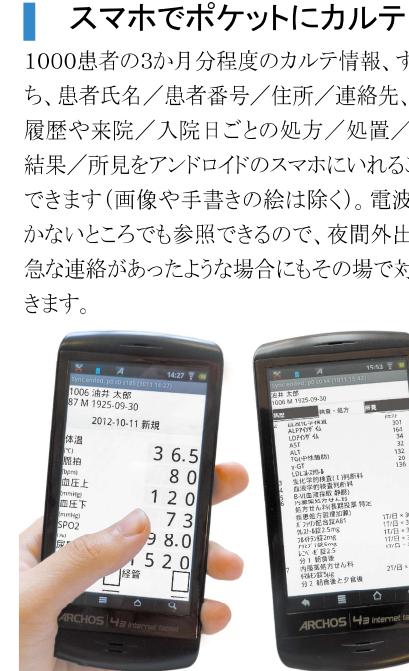
広がりと秩序、厳格で柔軟なドクターソフトコスモス

「コスモス」は分散／非集権の並列的な構造

複数医療機関のカルテデータベース(DB)をまとめず、病院ごとに外部から探せない場所に分散保管します。さらに、一医療機関のカルテDBは複数の場所にレプリカを持つことができ、互いに同期しながら保存し、これらのレプリカすべてに対等にアクセスできます。ケル

すべての項目を時系列でブラウズできるスーパービュー

病歴、薬歴、検査指示、検査結果、処置、を縦にリストし、横時系列に展開して何年分でもブラウズできます。たとえば、ある薬剤をいつからいつまで服用していたか、ある疾患がいつからいつまで続いていたか、ビジュアルに一目でわかります。検査結果は値とグラフも表示され、ある日のある項目をクリックするとその日のカルテが開きます。10年分でも数秒で表示し、これらの項目の時間的な関連を容易に認識できます。ドクターソフト内部では検体検査結果をJLAC10標準コードで保持するので、検査会社が変わったり、測定法や標準値が変わった場合でも誤認識を防ぐことが出来ます。個々の患者や疾患によって表示項目を絞ることができますので、すばやく認識が可能です。



ベロス認証により自院カルテへのアクセス権を得て、いずれのカルテDBに対しても、院内からでも院外からでもアクセスできます。複数の認証サーバーを対等に分散し、互いに同期しながらフェイルオーバーします。ユーザーは、自院のカルテを自分の手で管理でき、漏洩などの事故の場合もすべてのユーザーに被害が広がることはありません。

スマホでポケットにカルテ

1000患者の3か月分程度のカルテ情報、すなわち、患者氏名／患者番号／住所／連絡先、病名履歴や来院／入院日ごとの処方／処置／検査結果／所見をアンドロイドのスマホにいれることができます(画像や手書きの絵は除く)。電波の届かないところでも参照できるので、夜間外出中に急な連絡があったような場合にもその場で対応できます。



他に類を見ないカルテデータの同期機能

カルテデータベース(DB)は、院内、院外いずれにも設置でき、区別はありません。サイトやドメインに拘束されずにDBアクセスします。複数のDBは高度な方法で時々刻々同期をします。たとえば、複数のPCに予備DBを配置したり、災害に備えて遠隔地や自宅にバッ

クアップDBを配備するなど、状況に応じて柔軟に応用できます。予備DBサーバーへの切り替えは各クライエントPC上の切り替え機能により行うので確実に切り替えができる、複数の予備DBからユーザーが選択することもできます。

最後に一台でも業務ができる究極の可用性

ドクターソフトはすべてのPCがすべての機能を持っている、分散並列システムです。たとえば、受付のPCでもデータベース(DB)サーバーの機能を持つし、DBサーバーでも医師がカルテとして使えます。分散並列システムとコスモス同期の協調により、究極の可用性が生まれます。DBサーバーPCが故障したときは予備DBに切り替えて業務を継続でき、停電やインターネットの破綻の場合も、最終的

には一台のPCまで退縮してドクターソフトすべての機能を使えます。

往診でオフラインでも同じように使える

往診時にインターネットに接続しなくても、院内で使うのとまったく同様にドクターソフトを使うことができます。IPv6インターネットを利用できるWi-Fiを検出すれば場所にかかわらず自動的に病院のカルテデータベース(DB)と同期を開始し病院DBに書き戻します。また、Wi-Fiの範囲に置いておくだけで院内DBと同期を行うので、そのまま持ち出せば2分前までの院内のデータすべてを利用できます。

院外から簡単にカルテにアクセス、でも安全

ドクターソフトではIPv6で動く「コスモス」の機能で、院外からも直接院内のカルテデータベース(DB)にアクセスできます。院内からカルテにアクセスするのも、院外からアクセスするのも区別する必要がなくなります。院外からカルテを使う場合や遠隔サポートを受けるときにVPNなどの特別な仕組みや面倒な設定／手続きがコスモスでは不要です。



カルテ情報を徹底的に守り、いつでもどこでも災害時でも使える

データベース(DB)レプリケーションによるデータ安全性と可用性

ドクターソフトは、DBレプリケーション機能を持っています。院内も遠隔地も区別なく複数個所にカルテデータを時々刻々同期することで複数のレプリカが維持されます。ドクターソフトはDBサーバーとクライエントの区別がありません。すなわち、クライエントPCがDBサーバーに瞬時に昇格できるので、DBレプリカをクライエントPCを持っておけば、サーバーPCが故障しても1分でDBサーバーを別のPCに切り替え業務を継続できます。

すべてのドクターソフトPCが同一機能を持つ

すべてのドクターソフトPCが点数計算も含めたすべての機能を持ちます。すなわち、いずれのPCでもデータベース(DB)サーバーになり、レセプト作成もでき、事務員用のPCを医師がカルテ用に使うこともできます。

災害時、停電やインターネットが使えないなくても大丈夫

すべてのPCがDBサーバー機能も含むすべての機能を持っています。どのPCでもカルテ、会計、レセプト作成を含めてすべての作業ができます。データベース(DB)同期により複数PCにDBレプリカを維持すれば、どれでもDBサーバーに切り替えることができるので、DBサーバーを含めて何台かが壊れても、また、インターネットが不通でも、縮小して運用ができます。最終的に1台のPCでドクターソフトすべての運用ができます。実際に、地震や台風で電気もインターネットも使えない時に、ノートPC一台で業務を継続したケースもあります。

カルテを読み書きする権限を厳重に、柔軟に管理

WINDOWSのログイン管理の上に、ドクターソフト独自のユーザーログイン管理機能を持っています。使用者IDごとに各種の権限を設定できます。たとえば、低い権限のIDでログインすると、カルテを開くことはできませんが、氏名、住所、電話番号、被保険者番号、など患者データを家族単位でまとめることが可能で、家族の病歴、受診日、診療内容をすぐ確認できます。薬剤の在庫管理を処方と連動して行えます。処方は包装単位に自動換算され、在庫は包装単位で入庫ロットごとに管理できるので、有効期限切れのチェックもできます。検査会社からの結果報告をドクターソフトに自動読み込みしグラフ化できます。薬剤情報DBがオプションで提供されており、情報提供ができます。経営管理、患者管理のための集計表を自由に設計できる「汎用帳票システム」を備えています。抽出条件・縦軸・横軸・集計対象、をユーザーがそれぞれ指定することにより、1400種類以上の帳票を作成できます。

者個人を特定する情報を暗号のまま表示することもできます。患者名などを暗号化されたままですべての機能を使用できるので、経営帳票など印刷物を匿名化したり、調査研究などで患者データを利用する場合に、匿名化が容易にできます。たとえば、一つのカルテでも、医師が記録している部分は事務員には見えないとか、ナースは参照できるが書き込みできないとか、制限することができます。

ICカードで瞬間ログイン／ログアウト

電子カルテで、ログアウトが迅速簡便に出来ないと、ドクターの離席後に誰でもドクターのIDを使って入力できます。病院では非常に危険です。ドクターソフトではICカードをカードリーダーに置くだけで1秒でログイン、カードを持ち去れば1秒でログアウトできます。ICカードで操作者を識別し、ドクター専用、ナース専用等の画面を表示します。ICカードでログイン／アウトすれば、悪意のデータ改ざんを防げます。電子マネーのEdyやスイカを利用できます。(ICカードを使わずに手動でログイン、ログアウトすることも可能です)

ドクターソフトは医療経営を支援します

診察室で患者の待ち状態がわかるミニオーダリングシステム

患者さんの来院状況・待ち状況・オーダー状況・実施状況・予約状況を、院内のすべてのPCで参照できます。ドクターは、診察室に居ながらにして待ち状況をモニターし、待っている患者のカルテをPC上で参照できます。診察開始前に検査などの指示をスタッフに出すことも可能です。これにより、業務と患者の流れ

をスムーズにすることができます。

その他：家族管理、カルテ連動の在庫管理、検査結果保存、薬剤情報DB、汎用帳票

患者データを家族単位でまとめることが可能で、家族の病歴、受診日、診療内容をすぐ確認できます。薬剤の在庫管理を処方と連動して行えます。処方は包装単位に自動換算され、在庫は包装単位で入庫ロットごとに管理できるので、有効期限切れのチェックもできます。検査会社からの結果報告をドクターソフトに自動読み込みしグラフ化できます。薬剤情報DBがオプションで提供されており、情報提供ができます。経営管理、患者管理のための集計表を自由に設計できる「汎用帳票システム」を備えています。抽出条件・縦軸・横軸・集計対象、をユーザーがそれぞれ指定することにより、1400種類以上の帳票を作成できます。

事務の作業性も十分に考慮した医事機能

最大限の自動加算

無条件に加算できるものは自動加算、指導料などの医療行為を請求できる可能性があれば、ポップアップでユーザーに知らせ、まるめ、回数制限などは自動判断します。自動加算10種(対象2万5千項目)、判断料自動追加1種(対象1629項目)、まるめ700種、算定回数制限1680項目、包括3040グループ(対象1万1千項目)、併算定不可1442種(2万6千項目)主たる項目だけ算定169種(976項目)、ユーザー問い合わせ17種、を自動計算します。

請求先の自動振り分け

支払基金、国保連合会、自治体、患者自費、患者自己負担、などの請求先をドクターソフトが自動的に振り分けます。医療行為の入力を請求先別に分ける必要はありません。社保、公費、自費、自賠責の医療行為が混在してもドクターソフトが自動的に請求先ごとの請求書を作成します。制度上、請求先を自動判断できない医療行為項目は、ユーザーが項目ごとにマークをします。

事務員用の画面、完全コード入力、ワンタッチの患者仮登録、などで混雑回避

ドクターソフトは、大量の入力を高速に行う事務員専用の入力画面も備えています。レセコンのようにコード入力もできます。また、「2OR」(Rはリターンキー)の3タッチで自己負担20%の新患を仮登録して窓口計算でき、手が空いてから患者名や保険番号を入力することもできます。事務作業にも十分配慮した設計です。

請求カレンダー表示の上でそのまま入力／修正／計算できる

請求カレンダー上で実施日の列をクリック、ドラッグするだけで、入院など複数日まとめて入力できます。さらに、カレンダー上でレセプトと全く同じ一ヶ月分の請求計算ができます。計

算結果は、細目が日ごとに表示されるので、いつ、どのような加算が発生したか、あるいは、入院料がいつから減額されているのか、一目で把握できます。また、カレンダー上でも直接修正し、即時、総請求額を確認できます。入院で特に便利ですが、外来でも使うことができ、レセプト発行前のチェック／修正に絶大な威力を発揮します。

すべての診療科、保険／公費に対応し、保険切り替えもワンタッチ

歯科を除き、調剤薬局と入院を含むすべての診療科の請求計算ができ、一患者が複数診療科を受診した場合も、患者が複数の保険や公費を持っている場合も、患者登録は一つ、カルテも一つです。保険の組み合わせに応じて自動的に請求振り分けを行い、保険請求書、総括票、患者負担請求書を作成します。労災保険、自賠責、特定検診、全国の公費、自費、混合診療、介護保険(様式2, 5, 7, 10, 11)、障害者福祉(様式2)、DPC、すなわち、診療所、病院、施設でのすべての請求をカバーしています。面倒な保険の切り替えも、画面上でビジュアルに簡単にでき、過去にさかのぼって保険を変更したときには、自動的に患者負担金の差額を計算します。

レセプト計算の世代管理

レセプト計算対象の年月日により、その時々

入院2019/11/11 出院日2019/11/12													全範囲		
記録	表示	移動	月指定	モード切替え	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	37841
1995	2517	2190	1995	2126	1737	2115	1737	1737	1737	1737	1737	1737	1737	1737	37841
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	¥22070
1995	1995	1995	1995	1995	1737	1737	1737	1737	1737	1737	1737	1737	1737	1737	1995x14
¥640	¥640	¥640	¥640	¥640	¥640	¥640	¥640	¥640	¥640	¥640	¥640	¥640	¥640	¥640	¥640x33 50x19
¥ 50	¥ 50	¥ 50	¥ 50	¥ 50	¥ 50	¥ 50	¥ 50	¥ 50	¥ 50	¥ 50	¥ 50	¥ 50	¥ 50	¥ 50	
					30										30x 1
					50										50x 1
153					153										153x 2 57x 2
57					57										
16					16										16x 2
38					38										38x 2
38					38										38x 2
38					38										38x 2
38					38										

かげ入力 1000 沢井 太郎
H表 S陰 Z陰 Y葉 C注 T処 J手 K検
F終 E訂 R裏
ごみ [点?] [用] [S] [P]

急性期一般入院料3
入院期間加算(一般基本料 14日以内
入院時食事療養(I)
食堂加算
特別管理加算
経皮的動脈血酸素飽和度測定
動脈血採取
胸部X-P(単純撮影)
電子画像管理加算(一連の撮影について)
電子媒体に保存
血漿蛋白免疫学的検査
CRP定性(血清)/ILIA凝集法
免疫グロブリン(IgM)
IgM(血清)/TIA
IgA(血清)/TIA法
IgG(血清)/TIA法
血清学検査

オープンシステムで無限の拡張性と汎用性

機器も内部データも完全にオープン、カルテデータはユーザーのもの

ドクターソフトは、広く使われているMS-WINDOWS上に構築されていますので、PCやプリンターなどの機器は、最低限の性能を満たしている機器であれば、ユーザーが幅広く選択できます。ドクターソフトに蓄積される患者や診療のデータは、汎用的なXML形式のデータとして、すべて、完全に、取り出しが

できます。データを取り出す機能はドクターソフトに含まれており、ユーザー自身でも好きな時に取り出しができます。XMLデータ仕様も公開しているので、データを他社の電子カルテなどに渡すことができます。(他社がXMLを読み込む作業を行う必要があります)いかなる理由であれ、使用中止の場合は、ドクターソフト内部に蓄積されたデータは仕様書とともにユーザーにお返しします。

有効な点数と計算方法を自動的に判別するので、4月に法改正があった後で、3月分の再計算をするときなども、改正時期を一切意識する必要がありません。たとえば、3月20日から4月10日の期間の請求をする場合、計算は一度に行いますが、20~31日分は旧法律、以降は新法律に基づいた計算をします。何年も過去にさかのぼって再計算することも可能です。

全国に対応した地域公費

全国600種類の公費は事前に登録されおり、それぞれの請求方式に合わせた請求計算を行います。公費請求方式を設定する専用のツールがあり、どのような方式でも画面上で設定が可能です。このため、事前登録されていない公費を追加し、登録公費が変更された場合は変更することができます隨時、遠隔操作でできます。

高速なレセプト作成

レセプト作成は、患者一人当たり、外来は一秒以内、入院は数秒で処理します。診療所は、おおむね20分以内でレセ電算請求ファイルを作成できます。どのPCでもレセプト請求処理ができるので、請求に使っているPCが故障しても他のPCで即時代行可能。窓口業務やカルテ記入を行いながら同じPCでレセプト処理をすることもできます。複数のPCで分割処理もできるため、患者数が多い場合も処理時間を短縮できます。

カルテデータを取り出す、とり込む

ドクターソフト中のテンプレートや患者カルテ情報など、すべてXML形式で外部にエクスポートできます。エクスポートされたXMLは表示位置なども含めた完全な情報を含むので、ドクターソフトにインポートすると完全に元のカルテやテンプレートが復元されます。このXML形式の仕様は公開されているので、このXMLを解釈しインポートする仕組みを他社が

付加すれば他社のカルテであってもカルテを復元することができます。

大規模病院まで使える拡張性

それぞれのPCで稼動しているドクターソフトプログラム変更することなく、データベース(DB)サーバーをマイクロソフトSQLサーバーなどの大規模用DBに置き換えることができます。PC

台数やユーザー数が多く、DBサーバーを24時間止めることができないような大病院でもドクターソフトを利用できます。

他のシステムにカルテ情報を開放

他社のプログラムからドクターソフト内部のデータをリアルタイムで読み書きすることができる「S

EHELP」というCOMインターフェースを備えています。「SEHELP」は仕様を公開していますので、機能を拡張するプログラムを他社でも追加することができます。「SEHELP」はドクターソフトにログインしたときだけに利用できるので、拡張機能はドクターソフトのセキュリティーの基で動きます。

ドクターソフトは、販売と保守方法も幅広く選択できる

遠隔と訪問、保守サポートの選択

できるだけ低コストで導入したい場合は、遠隔保守サポート方式をお勧めします。遠隔保守サポートは、機器の購入／設置、などはユーザーが自分で行い、弊社やドクターソフトディーラは訪問を伴うサービス／サポートを一切行いません。機器の購入やLANの設置設定は、ユーザーの皆様がご自分で行うか(*1)、または別途近隣のPCサービス店などに依頼していただく必要があります。日常の保守サポートも電話、EメールとIPv6インターネット経由の遠隔操作で行います。弊社直販は遠隔保守サポートしか行いません。訪問保守方式は、販売も含め保守サポートのすべてを、ドクターソフト専用ディーラが、ユーザーのご要望にあわせて有料で行います。たとえば、機器は

ユーザーが自分で調達するが、設定はディーラに行つてほしいという風に、個別の要望に対応します。料金は、手数に応じて個別に見積もりを行います。

ソフトウェアだけのレンタル販売

ドクターソフトはソフトウェアのみのレンタル販売です。ユーザーが使用している限り、ソフトウェアのレンタル料金と保守料金を月々頂きますが、法改正やバージョンアップに際し、特別な費用は不要です。しかも、いつでもペナルティー無くドクターソフトの使用をキャンセルでき、それ以降の料金は発生しません。したがって、リース期限まで無理をして使い続ける必要もなく、いつでも他のソフトに乗り換えることができます。

何台のPCにインストールしてもよい

レンタル料金は同時にログインするPC数(ライセンス数)により決まります。ドクターソフトのインストール自体は、PC何台でも無料です。たとえば、5台のPCにインストールしてドクターソフトが稼働していても、そのうち、同時にドクターソフトにログインするのが3人(3台)であればライセンス数は3ライセンスです。5台のうち任意の3PCにログインができます。たとえば、2つの診察室にそれぞれドクターソフトPCを設置し、一人の医師が移動しながら診療する場合、それぞれの診察室でログイン／アウトをすればライセンス数は1です。また、データベースサーバーは、ログインしなくても稼働するので、ログインしないで動かしておけば予備サーバーは無料です。一台が故障の時にすぐ予備PCで作業できます。

ドクターソフトに必要な機器

PC	Windows - PC、デスクトップまたはノート型
基本ソフト	Windows 10 Pro以上
メモリー	最低4GB、8GB以上を推奨(2019/9時点)
ディスク	最低250GB
バックアップ装置	ブルーレイディスクなど
プリンター	Windowsプリンター
LAN	100BASE-T以上、Wi-Fi可
ルーター	YAMAHA NVR510 (2019/9時点)
DBサーバー	DRSサーバ(M16)、Oracle、マイクロソフト、SQLサーバー、INFOMIX

(*)遠隔保守サポートによる導入時にユーザーに必要なPCの知識

ドクターソフトを遠隔保守で運用するためには、次の例の作業を行うことができる程度の知識がユーザーに必要です。あるいは、代行するPCサービス店をユーザーが用意してください。ドクターソフト固有の知識は不要です。インターネット、LAN、WINDOWS、PCに関する知識だけが必要です。

- 1) PC本体とは別にLAN機器(ルータやハブ)を自分で購入して、自分で設置、設定できる。
- 2) インターネット接続を自分で行い、PC上でウェブページなどを参照し、EMAILを送受信することができる。
- 3) PC本体とは別に、プリンターを購入し、自分で設置設定して使うことができる。
- 4) 市販のソフトウェアを購入し、自分でインストールして使用することができる。

遠隔保守サポートでできること、できないこと

- 出来ること
1) 法改正時のプログラムとマスターの更新
2) ドクターソフトが正しく動かない場合の原因解析と対処
3) ドクターソフトのプログラムやマスターのバージョンアップ
4) ユーザーライセンスの発行／更新
5) ドクターソフト一式のインストール

- 出来ないこと
1) WINDOWSのインストール
2) WINDOWS自身の故障の解決
3) LANやインターネットの設定と通信の故障の解決
4) LANやプリンターの配線
5) ハードウェアの修理など

価格、遠隔／訪問保守サポートの場合

ドクターソフトの価格は、契約時に一回だけお支払いいただく一時金と、月々お支払いいただくソフト使用／保守サポート料金の組み合わせです。法改正、使い方や設定のサポート、故障やトラブルの解決、および、バージョンアップは、月々の料金に含まれます。ハードウェア、基本ソフト、ワクチンソフト、マイクロソフトオフィスなどの汎用ソフト、はドクターソフトの料金に含まれていません。同時利用ライセンス台数を増減する場合は、契約時一時金は不要です。予備のPCや予備データ

*2020年1月時点の価格。(消費税を含みません)

	契約一時金(直販)	使用料+保守サポート料(直販)
PC3台まで	170,000円	32,300円／月
PC4台	170,000円	38,550円／月
PC5台	170,000円	44,800円／月
PC6台	170,000円	51,050円／月

*PC6台目以降は、1台増えるごとに6,250円プラス

ドクターソフトをOEM供給しています

ドクターソフトのコアは、COMサーバーになっており、他のソフトに組み込むことができます。貴社のシステムにドクターソフトを組み込むことにより、調剤薬局と入院を含むすべての診療科の点数計算ができるようになります(歯科は除く)。法改正に伴う点数計算プログラム変更やマスター変更も弊社から供給しますので、貴社システムの開発維持保守コストを大幅に削減することができます。ユーザー環境をインターネットから自動更新する方法も用意しています。OEMに関しては弊社に直接お問い合わせください。

ベースサーバーのドクターソフト利用料保守サポート料は無料です。遠隔保守サポートの場合の価格は下記です。訪問保守が必要な場合はドクターソフトディーラから導入し保守サポートします。このときの料金は、ドクターソフトのディーラが個別に見積もりをします。使用を中止する場合は、いつの時点でもペナルティーはありませんが、契約時一時金および中止時点までの使用料、保守サポート料はお返しません。保守サポートは、遠隔、訪問保守サポートいずれの場合も、電話とインターネット回線を利用します。ユーザーはIPv6のインターネットをご用意ください。ハードウェア、基本ソフト(WINDOWS)、LAN、通信回線の設置／設定／保守は、遠隔保守サポートの場合は、ユーザーがご自分で行うか、または、近くのPCサービス業者にユーザーから依頼して実施してください。これらの保守サポートを行なう上でドクターソフトの知識は不要です。ドクターソフトディーラが訪問保守サポートを行う場合は、これらの保守サポートも有料で行います。

試用版のインストール

ホームページ <http://yuiconfulting.com> から無料の試用版とユーザーズマニュアルをインストールできます。

問い合わせ先

株式会社油井コンサルティング

1610033 東京都新宿区下落合1-5-22 アリミビル5F

TEL 03-3227-7060 EMAIL drs@yuiconfulting.com